



ドレスコード一考

北新地のクラブに行くにはスーツかジャケット、ネクタイ着用というまことしやかなルールのようなものがあります。大人の社交場だから、身なりを整えてという当然のエチケットやマナー。欧州では、オペラやコンサートには紳士淑女が着飾っています。いわゆるよそ行きの感覚です。北新地はそんな場所です。

しかし昨今随分とラフな格好の方もいらつしやいます。ルーズで無頓着な格好は、雰囲気を壊すことにもなりますし、お店の資質を問われる事にもなりかねません。しかしどうでしょう？ なかにはジャケットやネクタイがなくとも、ハイファッションで極め込んでる方もいらつしやいます。お店側にとつてもその目利きの知識や感性は、良いおもてなしをするために必要です。それこそ欧州の社交場は時代と共に多種多様に進んでいます。

スーツでバシツと決めていこう！ ハイセンスでファッショナブルに行こう！
いずれもその思い、気持ち、気合い、感性が大事でステキです。

気持ちが変われば服装が変わる。服装が変われば振る舞いが変わる。
振る舞いが変われば飲み様が変わる。飲み様が変われば…？

そこからはお楽しみ、あなた次第です。
さあ！今夜もめかし込んで北新地へ出かけましょう！

◆それぞれの業態内容を一言で言うとならば

・ **クラブ**
一人のお客様に一人のホステスさんが付き接客するお店。

・ **ラウンジ**

一組のお客様に一人以上のホステスさんが付き接客するお店。

・ **スナック**

カウンター越しに接客するお店。

・ **バー**
カクテルを提供できるお店。

◆北新地発 クラブの語源

昭和35年頃、茨木カンツリー倶楽部の会員たちで「19番ホール」として北新地で遊ぶ店をつくる相談が牡丹後夫氏にありクラブぼたんとして営業を始めた。

◆北新地発 ラウンジの語源

昭和54年夏、クラブDANAを経営していた今井利充氏が、クラブとスナックの中間業態として店名をバーラウンジDANAとしてホステスには全員、白のブラウス・蝶ネクタイ・黒のロングスカートを着用させ営業を始めた。

◆酒場のスナックとは、もともとどういう意味ですか？

スナックはもともと「軽い食事」の意味です。酒場のスナックはスナックバーの略で、軽い食事も出せるバーのこと。東京オリンピック開催の1964年に、お酒を取り扱うお店が深夜営業するためにスナックを提供するお店という扱いが広まりました。

◆コンパニオンとはどういう意味ですか？

英語で「話し相手」の意味。それが日本で水商売の接待係を意味するようになりました。ホステスとの違いは、ホステスは顧客管理なども行うプロといえますが、コンパニオンは接客のみのアルパイト的なものといえます。

